

若年層に向けた 建設産業の魅力発信 実施の効果



国土交通省



一般財団法人

建設業振興基金

若者の入職促進に資するイベントの開催とその効果について

趣旨・目的	2
イベント実施の効果測定について	2
実施イベント一覧	3

アンケート総計

参加者の属性	4
イベント実施の効果	
①建設産業に関する知識の増加	4
②建設産業への興味関心の高まり	5
③建設産業入職への意欲向上	5
④建設産業への入職に興味を示した理由	6

モデル事例全体の分析

個別に分析を行うモデル事例一覧	7
入職に興味を示した理由別のイベント内容の傾向	8～9

モデル事例別の効果

7月29日（土）「土木女子といっしょに防災について考えよう！」	10～12
8月6日（日）「女性エンジニアと防災について学ぼう！」	13～15
8月9日（水）「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ in いしおか」	16～18
9月30日（土）・10月1日（日）「Out of KidZania inふくしま相双2023」	19～21
10月21日（土）「あかりの日に竹あかりを灯そう」	22～24
11月20日（月）「女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！」	25～27
11月25日（土）「しずおか建設まつり」	28～30

○趣旨・目的

主に中学生以下の若者（極力保護者を含む）に対し、建設産業への理解を深めてもらい、建設産業の魅力を広く発信することで、若者の建設産業への入職を促進していくべく、建設産業女性定着支援ネットワーク（以下、当NW）加入団体との共催で当該目的に則したイベントを実施した。

また、イベント実施後に本人とその保護者を対象としてアンケートを実施し、建設産業への理解・興味関心等についてのイベント前後における意識の変化や、当該イベントの中長期的な人材確保への効果などを調査した。

○イベント実施の効果測定について

「建設産業に関する知識」や「建設産業への興味」を向上させる取組が建設産業への入職への意欲を高めるのではないかと仮説のもと、これらの観点からイベントによる効果について分析。

また、全14件のイベントの中から特にモデル性の高い7件を抜粋し、入職への意欲向上につながった要因と事例の特徴について個別に分析を実施。

若者の入職促進に資するイベントの開催とその効果について

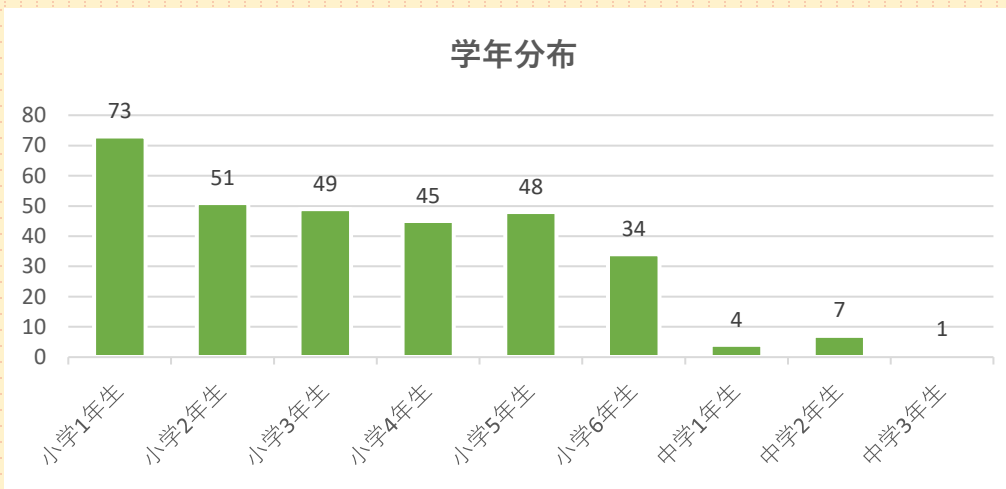
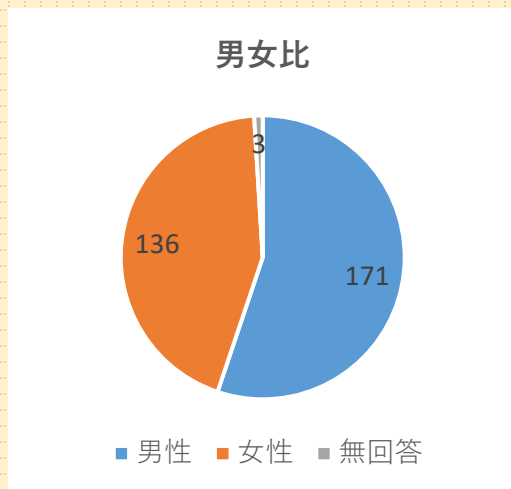
○実施イベント一覧

	開催日時	イベント名	主催団体
1	2023年7月29日（土）	土木女子といっしょに防災について考えよう！	一般社団法人土木技術者女性の会（中部支部） ※大府市、愛知工業大学工学部土木工学科 鈴木研究室と共同開催
2	2023年8月6日（日）	女性エンジニアと防災について学ぼう！	一般社団法人土木技術者女性の会（西日本支部） ※(一社)大阪建設業協会なにわ建女の会と共同開催
3	2023年8月9日（水）	夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ inいしおか	一般社団法人土木技術者女性の会（東日本支部） ※茨城県石岡市および(一社)茨城県建設業協会建女ひばり会と共同開催
4	2023年8月25日（金）	親子で参加企画 住宅のリフォームってなあに？	日本建築仕上学会 女性ネットワークの会
5	2023年8月27日（日）	建設フェスタ2023inあつぎ	日本建築仕上学会 女性ネットワークの会
6	2023年9月30日（土） ～10月1日（日）	Out of KidZania in ふくしま相双2023	一般社団法人福島県建設業協会 ふくしま建女会
7	2023年10月9日（月）	日本の伝統的な左官材でピカピカ泥団子を作ろう！	一般社団法人女性技能者協会
8	2023年10月14日（土）	のこぎりを使った木工体験	一般社団法人女性技能者協会
9	2023年10月21日（土）	あかりの日に竹あかりを灯そう	一般社団法人女性技能者協会
10	2023年11月19日（日）	土木女子とふれる、土木ってなに？	一般社団法人土木技術者女性の会（中部支部） ※愛知県大府市・愛知工業大学と共同開催
11	2023年11月20日（月）	女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！	一般社団法人土木技術者女性の会（中部支部） ※NEXCO中日本 岐阜工事事務所と共同開催
12	2023年11月25日（土）	竹あかりを作ってみんなで灯そう	一般社団法人女性技能者協会
13	2023年11月25日（土）	しずおか建設まつり	日本建築仕上学会 女性ネットワークの会
14	2023年11月25日（土） ～11月26日（日）	Out of KidZania in しらかわ2023	一般社団法人福島県建設業協会 ふくしま建女会

アンケート総計

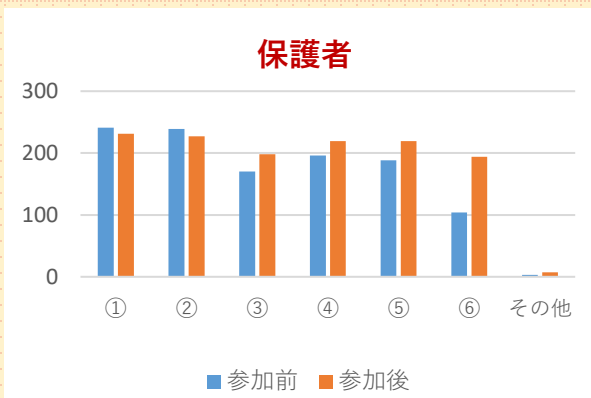
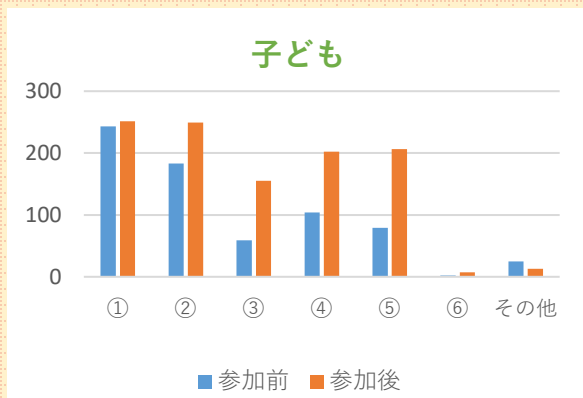
○参加者の属性

イベント参加者約700名、アンケート回答者は子ども310名（回答率44%）、保護者257名。
回答者の属性は以下の通り。



○イベント実施の効果

①建設産業に関する知識の増加

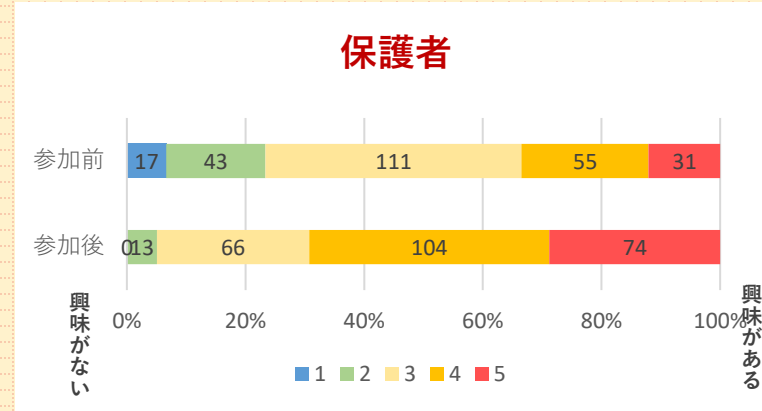
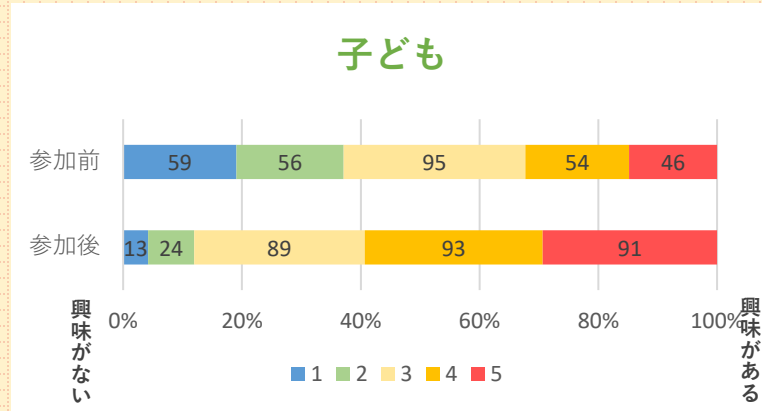


【グラフ項目】

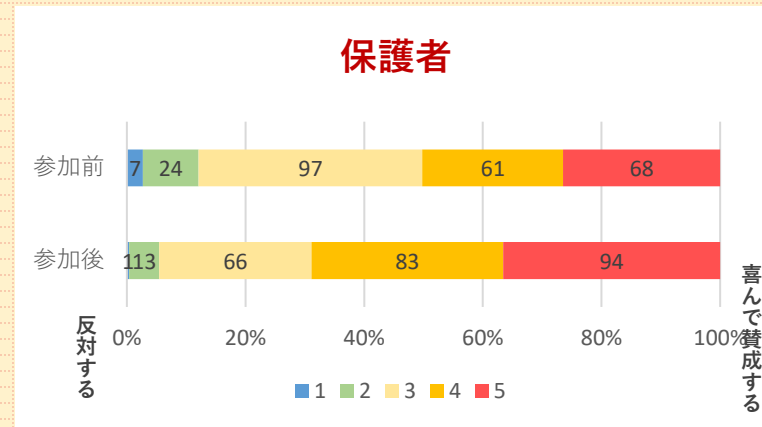
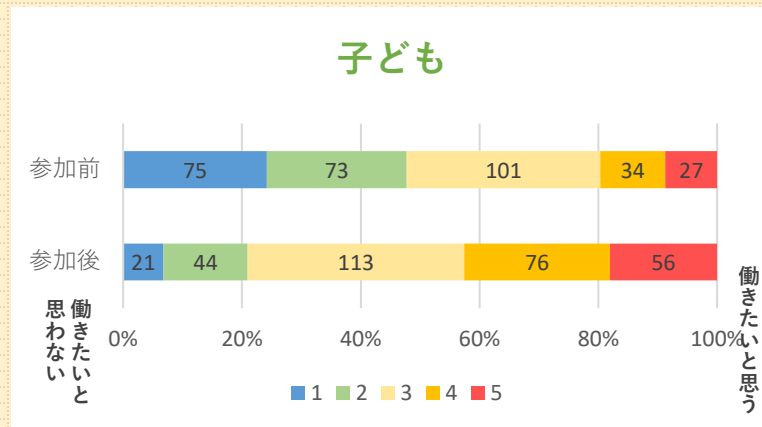
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
- ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
- ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
- ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
- ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
- ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

アンケート総計

②建設産業への興味関心の高まり

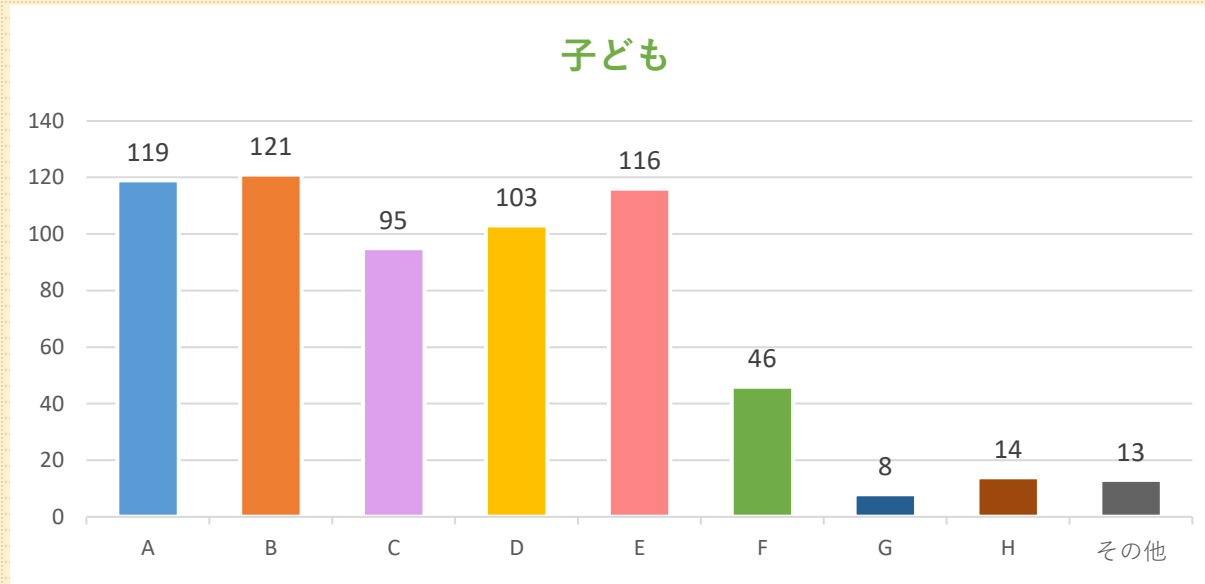


③建設産業入職への意欲向上



※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

④建設産業への入職に興味を示した理由



【グラフ項目】

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C かわいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くならないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

建設産業への入職に興味を示した理由に関する設問への回答（イベント参加後）はA～Eが多かった。イベント内容と各回答の傾向について、次ページ以降で分析を実施。

モデル事例の分析

○個別に分析を行うモデル事例一覧

	開催日時	イベント名	主催団体	イベント概要
1	7月29日 (土)	土木女子といっしょに防災について考えよう！	一般社団法人土木技術者女性の会 (中部支部) ※大府市、愛知工業大学工学部土木工学科 鈴木研究室と共同開催	防災学習センターで水害地震コーナーをはじめとした各種体験を実施。あわせて土木技術者として働く女性による土木の仕事紹介を行った。
2	8月6日 (日)	女性エンジニアと防災について学ぼう！	一般社団法人土木技術者女性の会 (西日本支部) ※(一社)大阪建設業協会なにわ建女の会と共同開催	津波・高潮ステーションの見学と防災クイズを実施。防災と関係の深い土木分野の女性エンジニアの仕事紹介も行った。
3	8月9日 (水)	夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ inいしおか	一般社団法人土木技術者女性の会 (東日本支部) ※茨城県石岡市および(一社)茨城県建設業協会建女ひばり会と共同開催	簡易橋梁点検チェックシートを用いた橋の点検やトンネル工場の現場見学などを行った。
4	9月30日 (土) ～10月1日 (日)	Out of KidZania in ふくしま相双2023	一般社団法人福島県建設業協会 ふくしま建女会	子ども向けの大規模な仕事体験イベントにブース出展。シミュレーターを用いた建設機械の運転や測量作業などを体験。
5	10月21日 (土)	あかりの日に竹あかりを灯そう	一般社団法人女性技能者協会	電動工具を用いて竹に穴を開け、イベントの最後には竹あかりとして光を灯した。
6	11月20日 (月)	女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！	一般社団法人土木技術者女性の会 (中部支部) ※NEXCO中日本 岐阜工事事務所と共同開催	小学校の授業の一環として、近隣の高速道路の工事現場の見学会を実施。
7	11月25日 (土)	しずおか建設まつり	日本建築仕上学会 女性ネットワークの会	建設業を題材にした屋外イベントにブース出展。おもちゃの工事車両の飾り付け体験や建築分野の講演など実施。

○入職に興味を示した理由別のイベント内容の傾向

●イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。

(ねらい) 一定程度集中力の続く**小学校中学年～高学年以上**をターゲットとして、単なる体験等に留まらず**学びに重点**を置いたイベントにすることで、「楽しかった」という感想に留まらない興味関心へとつなげる。

(結果) **主として小学校中学年～高学年以上が参加した、やや高度な知識を含む学習**（構造物の仕組みや設計上の工夫など）を内容としたイベントにおいてこの回答が多く見られた。

(事例のポイントや工夫) 自由研究への活用を促し夏休み中に行く、小学校の授業の一環として行うなど、学びというテーマと親和性の高い学校との組み合わせは集客も期待できる。

座学をベースに、防災（地震や津波）、橋、道路等、身近なものを題材とした簡単な実験や体験、現場見学といったプログラムを盛り込むなど、飽きさせない工夫は必要。

●楽しそうだから。

(ねらい) **小学校低学年～中学年**をターゲットとして、**仕事の疑似体験を通して**「建設産業＝楽しい」のイメージを持ってもらう。

(結果) 本物の機械を用いるなど、**より実際の仕事に近い本格的な体験でありながら、小学校低学年～中学年向けに簡略化**した内容に工夫されたイベントでこの回答が多く見られた。また、この回答が多かったイベントでは、他のイベントよりも多くの参加者が集まる傾向があった。

(事例のポイントや工夫) ICT建機や測量機器を用いた職業体験や、電動工具での作業を含むものづくりなど、安全面に配慮しつつ**実際の職人（大人）とできるだけ同じ道具で同じ作業**ができる工夫がイベントの満足度を高めていると考えられる。体験型イベントは集客が多い傾向もあり、内容の工夫さえできれば効果的な魅力発信が期待できる。

モデル事例全体の分析

●かっこいいから。

●人の役に立つ仕事だから。

(ねらい) 一般に建設産業に対して災害対応等のイメージが浸透していないと思われ、災害において建設産業が果たす役割をPRすることで、**社会貢献**に興味のある若者に訴求する。

(結果) **インフラ整備や災害対応などの建設産業の役割や重要性**について、地域の暮らしと関係の深い題材を通して学習できるイベントでこの回答が多く見られた。

(事例のポイントや工夫) 中でも、地域で起こりうる災害の規模や影響について学べる防災体験・学習施設との連携や、地域のインフラをつくる現場の見学など、**参加者が当事者意識を持って学べるよう、身近な題材で建設産業がどのように役立っているか**を伝えるイベントが、より建設業に対する好印象を与えている。

●物を作るのが好きだから。

(ねらい) 子どものモノづくりへの興味を**建設産業の仕事への興味と結びつける**。

(結果) **建設材料や職人が使う工具を用い、他者と共用するモノの制作から利用までを行うイベント**は、一人で使うモノの制作のみのイベントと比べて、入職への興味が好転した子どもに占めるこの回答の割合が**3割程度多かった**。

(事例のポイントや工夫) モノを作って終わりではなく、**実際に他者に利用してもらい、成果物に対する反応まで体感**できるイベントとすることで、より子どものモノづくりへの興味が「**人に貢献するモノづくり**」をする**建設業に向けた**と考えられる。

モデル事例別の効果

7月29日（土）「土木女子といっしょに防災について考えよう！」

【イベント概要】

DAIWA防災学習センターにて水害地震コーナーの体験をはじめとした各種体験を通して参加者に防災について知識を深めてもらい、あわせて防災と関係の深い土木の仕事についての紹介を行った。

【参加者】23名

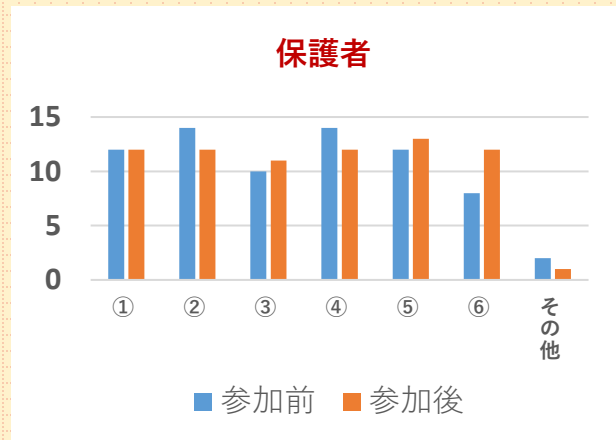
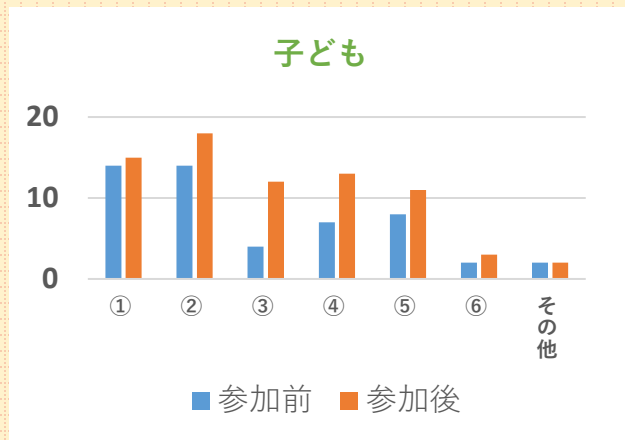
【アンケート回答者】21名（男性11名・女性10名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	2	2	3	4	5	1	1	2	1

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

イベント参加前後では、各層ほとんどの項目において知っていると回答した人数が増加した。



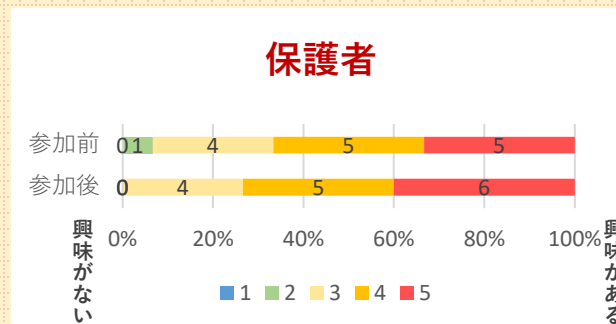
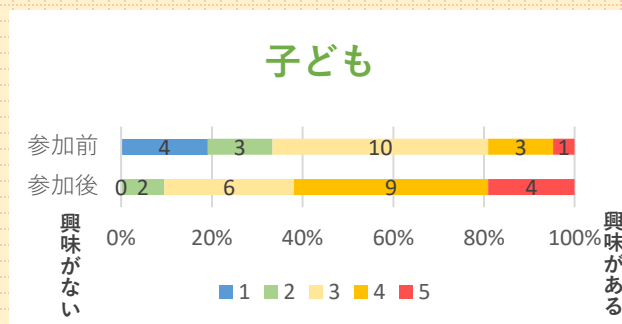
- ▲
グラフ
項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

モデル事例別の効果

7月29日（土）「土木女子といっしょに防災について考えよう！」

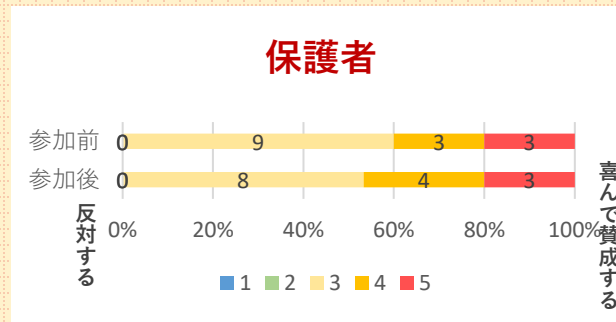
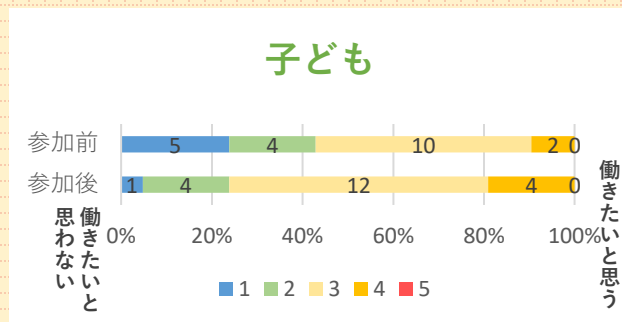
(2) 建設産業への興味

全体として、イベント参加前後では、興味がない（1， 2）と答えた人数が減り、とても興味がある（4， 5）と答えた人数が増加傾向にあった。



(3) 建設産業への入職への意欲

小学生・中学生においては、働きたいと思わない（1， 2）と答えた人数が減少傾向にあり、とても働きたいと思う（4， 5）と答えた人数が増加傾向にあった。

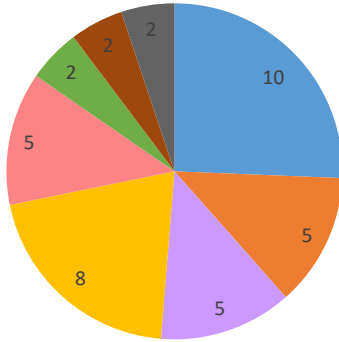


※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

7月29日（土）「土木女子といっしょに防災について考えよう！」

(4) 建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生・中学生のみ回答、複数回答可）

全体として、「イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから」働きたいと考えた人が最も多く、次いで「人の役に立つ仕事だから」という回答が多かった。



■ A ■ B ■ C ■ D ■ E ■ F ■ G ■ H ■ その他

△
グラフ項目▽

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C カッコいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くならないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

○その他回答（2件）：「わからない」「大変そうだから」

(5) 総括

本イベントでは、地域で起こりうる水害や地震などの規模の体験とあわせて、土のう袋の製作・使用実験や、ペーパークラフトを用いた筋交いの重要性に関する実験など建設産業の仕事を防災の視点から学べる実験を行った。

体験・実験を交え、参加者の暮らす地域における防災を建設産業の仕事と結びつけて学べる内容としたことで、防災における建設産業の重要性を参加者がより深く理解でき、イベント参加をきっかけに「人の役に立てる」建設産業への入職に興味を持ったと考えられる。

モデル事例別の効果

8月6日（日）「女性エンジニアと防災について学ぼう！」

【イベント概要】

津波・高潮ステーションでの施設見学や防災クイズなどを通して参加者に防災に関する知識・関心を深めてもらい、あわせて防災と関係の深い土木の分野で活躍する女性エンジニアの仕事についての紹介を行った。

【参加者】12名

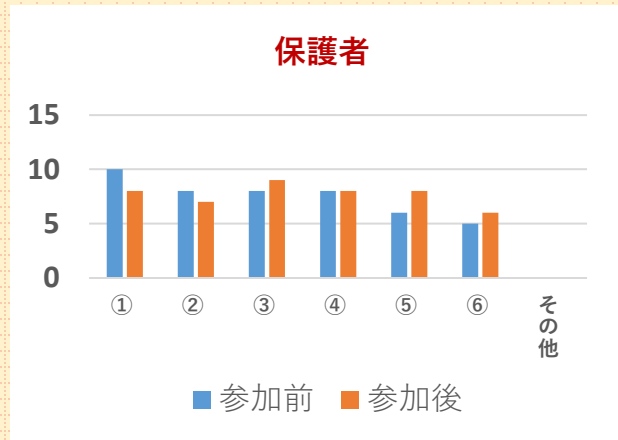
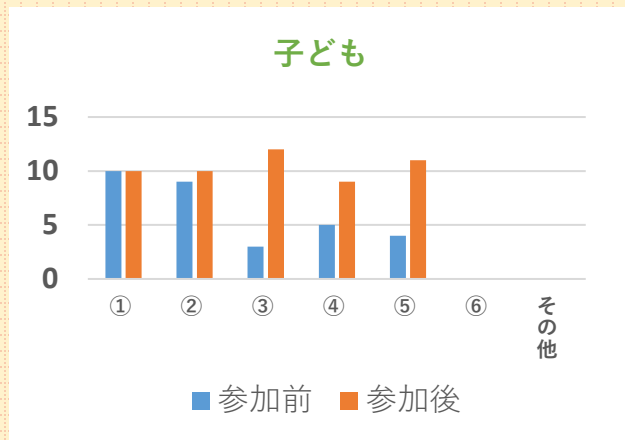
【アンケート回答者】12名（男性3名・女性9名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	2	1	1	3	3	2	0	0	0

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

小学生においては、イベント参加前後で特に③～⑤について知っている人数が増加した。

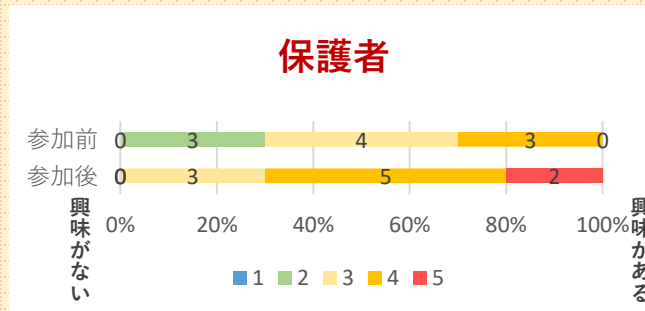
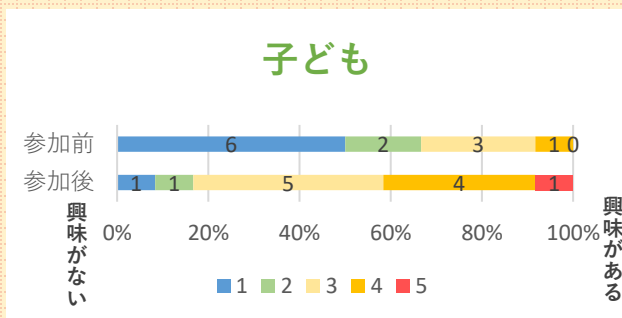


- ▲
グラフ項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

8月6日（日）「女性エンジニアと防災について学ぼう！」

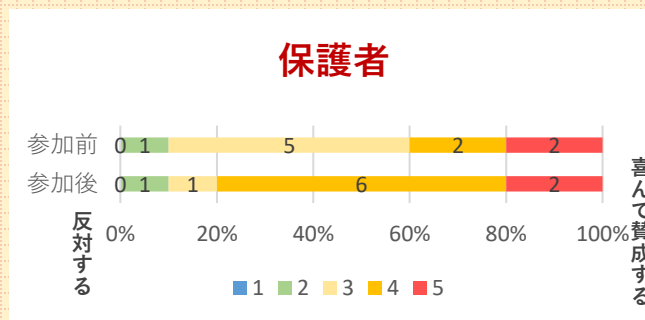
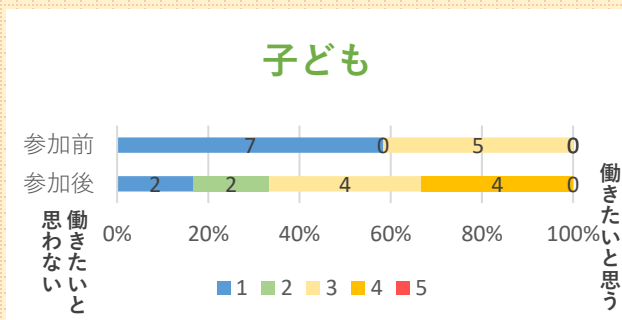
(2) 建設産業への興味

全体として、イベント参加前後では、興味がない（1， 2）と答えた人数が減り、とても興味がある（4， 5）と答えた人数が増加した。特に5と答えた人数は全体で0⇒3と増加した。



(3) 建設産業への入職への意欲

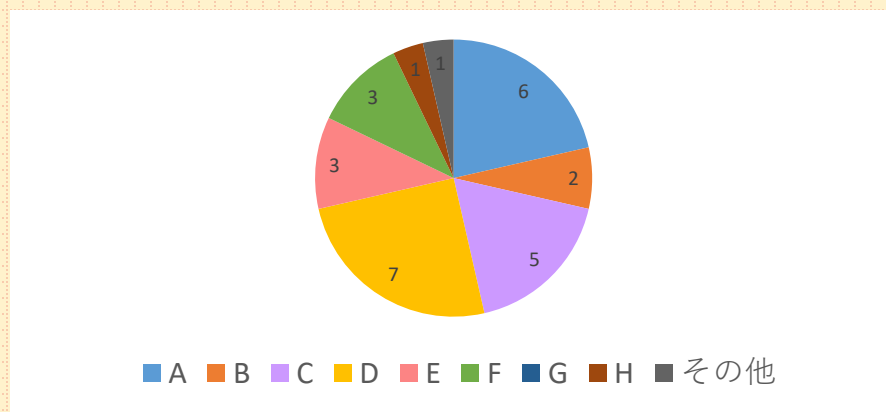
全体として、イベント参加前後では、働きたいと思わない（1， 2）と答えた人数が減少傾向にあり、とても働きたいと思う（4）と答えた人数が増加傾向にあった。特に4と答えた人数は全体で2⇒10と増加した。



※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

8月6日（日）「女性エンジニアと防災について学ぼう！」

- (4) 建設産業への就職に意欲を示した理由（小学生のみ回答、複数回答可）
小学生においては「人の役に立つ仕事だから」という理由が最も多かった。
次いで「イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから」「かっこいいから」という理由が続いた。



↑
グラフ
項目
↓

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C かっこいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

(5) 総括

本イベントでは、地域で発生が予想される津波の大きさや高潮の発生の仕組み、津波・高潮から町を守る防潮水門のはたらきについて体験学習施設で学び、座学で防潮水門の調査・計画から維持管理に至るまでを行う建設産業の仕事を学習した。実際に起こりうる災害と建設産業の仕事のつながりを結びつける構成としたことで、参加者は自分たちの暮らす地域を守り「人の役に立つ」建設産業の仕事のかっこよさを身近に感じることができ、入職への意欲が高まったと考えられる。

モデル事例別の効果

8月9日（水）「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ in いしおか」

【イベント概要】

日本大学工学部で展開されている「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」を参考として、子どもとその保護者と共に、簡易橋梁点検チェックシートを用いた橋梁点検や、トンネルの工事現場見学などを行った。

【参加者】10名

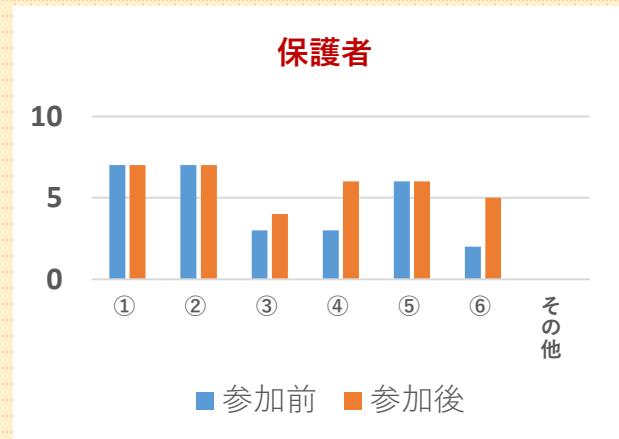
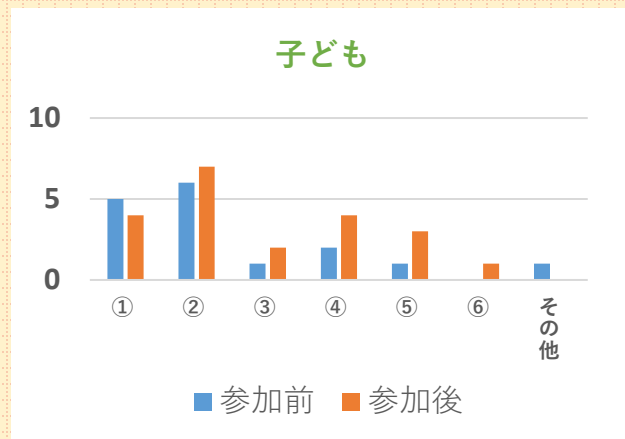
【アンケート回答者】7名（男性5名・女性2名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	0	0	0	3	2	0	0	2	0

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

全体として、イベント参加前には知らない人が多かった④～⑥について知っているという回答した人数が増加した。



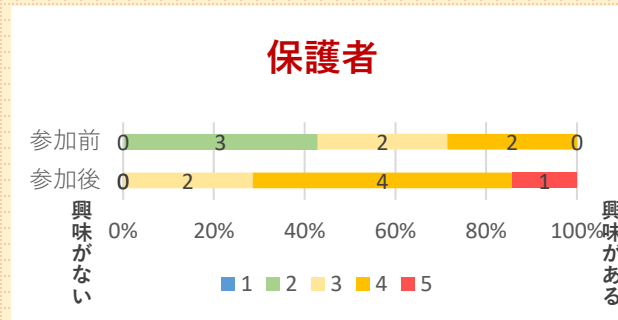
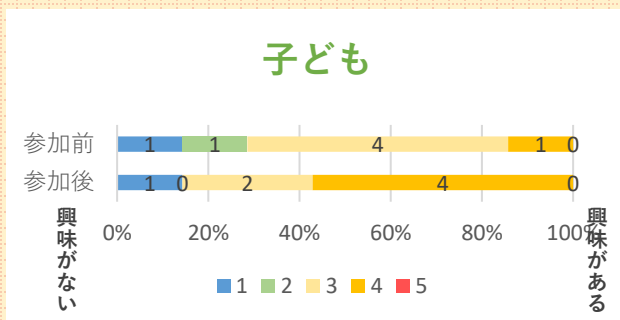
- ▲
グラフ
項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

モデル事例別の効果

8月9日（水）「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ in いしおか」

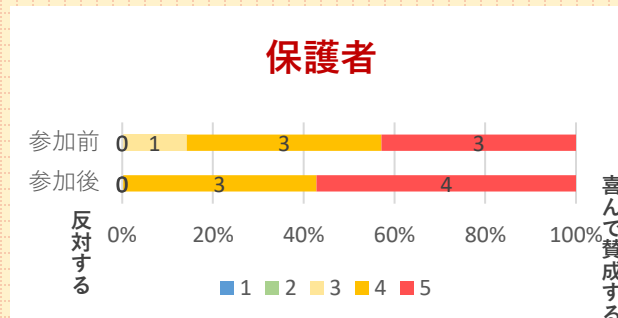
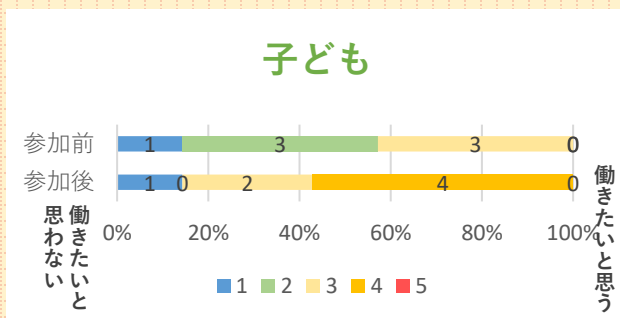
(2) 建設産業への興味

全体として、イベント参加前後では興味がある（3～5）と答えた人数が増加傾向にあり、特に保護者においては最低が3となり、5と答えた人は0⇒1と全体的に増加で推移した。



(3) 建設産業への入職への意欲

全体として働きたいと思う（3～5）と答えた人数はイベント参加前後では増加傾向にあった。

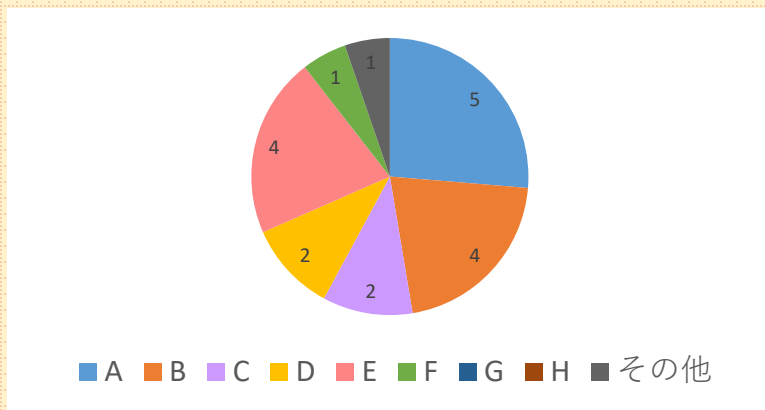


※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

8月9日（水）「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪ in いしおか」

(4) 建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生・中学生のみ回答、複数回答可）

全体として「イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから」と答えた人が最も多く、小学生では「物を作るのが好きだから」、中学生では「楽しそうだから」と答えた人もそれぞれ同数いた。



≪グラフ項目≫

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C カッコいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くなるから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

○その他回答（1件）：「働きたいと思わない」

(5) 総括

本イベントでは橋梁点検とトンネル工事の現場見学を行った。見学場所へ向かう前の座学で点検を行う橋の構造をペーパークラフトを用いて学んだり、トンネル工事の現場見学ではコンクリート打設前の防水シートに自由に絵を描いたりと、モノづくりの要素を建設産業の仕事の学習に組み込んだ内容としていたため、モノづくりが好きな参加者の建設産業への入職の意欲を高めることができたと考えられる。

モデル事例別の効果

9月30日（土）・10月1日（日）「Out of KidZania inふくしま相双2023」

【イベント概要】

子ども達が実際の仕事現場で働く人と直接関わる中で、仕事そのものへの興味を持ち、関心を広げ、仕事や社会について幅広く「気づく」ことを目的として開催されたイベントに出展。本ブースではシミュレーターを使った建設機械の運転や測量作業、重機の試乗など、建設現場での仕事体験を行った。

【参加者】 87名

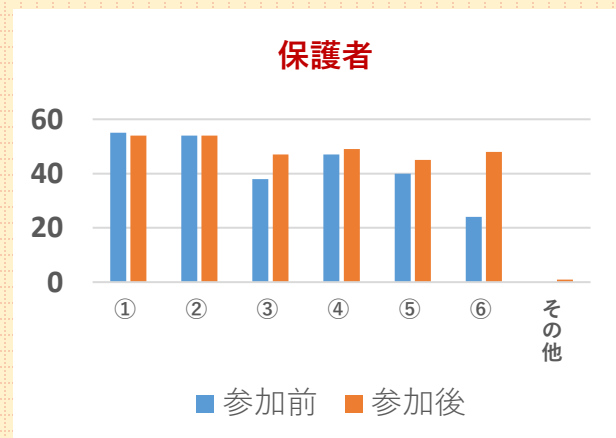
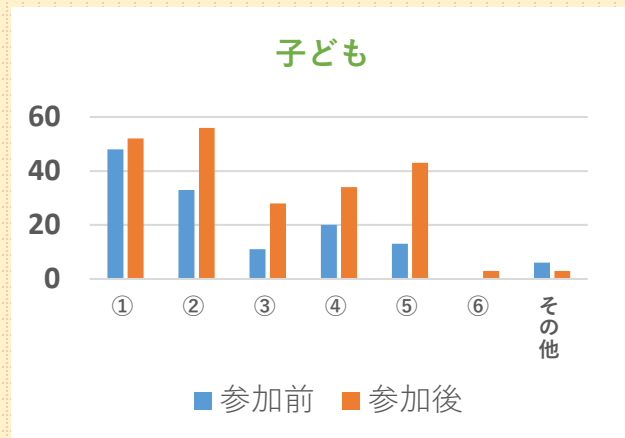
【アンケート回答者】 58名（男性38名・女性20名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	15	11	14	6	7	1	3	1	0

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

全体として数値は好転しているが、小学生では特に②③⑤、中学生・保護者では特に⑥の数値が上がった。



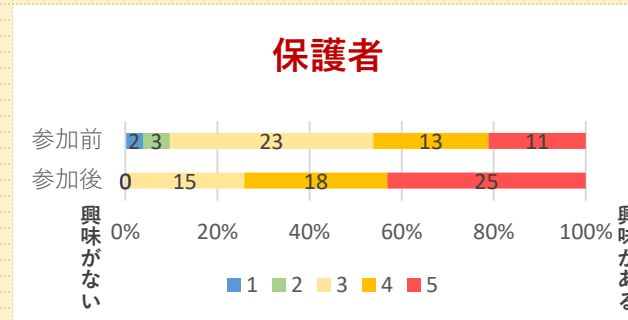
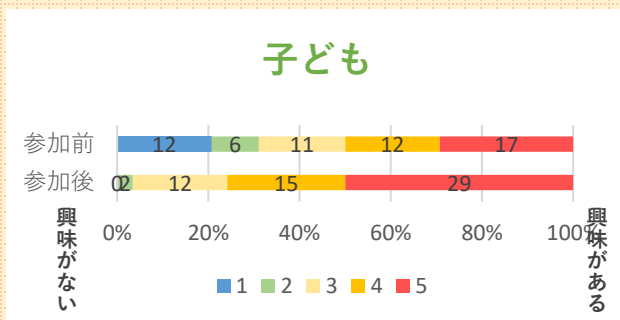
- ▲
グラフ項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

モデル事例別の効果

9月30日（土）・10月1日（日）「Out of KidZania inふくしま相双2023」

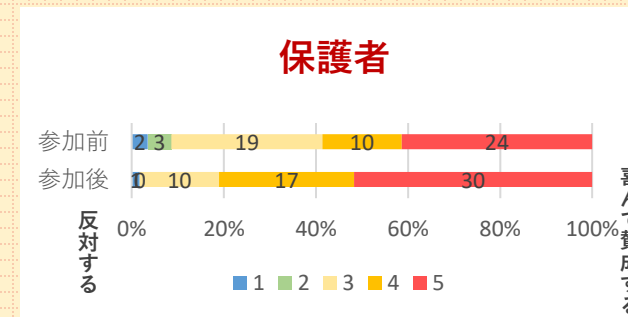
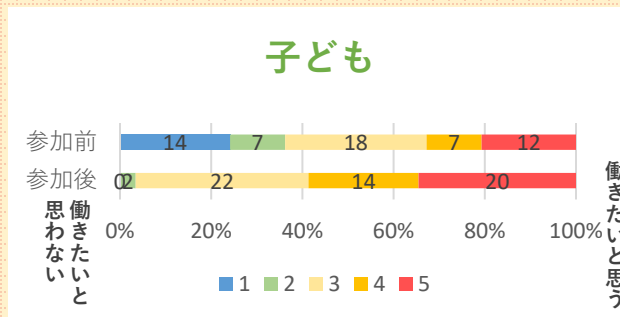
(2) 建設産業への興味

参加者全体で共通して、建設産業に興味がない（1， 2）と回答した人はイベント前後で大きく減少もしくはゼロとなり、興味がある（4， 5）と回答した人は増加した。



(3) 建設産業への入職への意欲

小学生については、建設産業への入職に消極的な人（1， 2）の数はイベント前後で21⇒2と大きく減少し、建設産業への入職に意欲を示した人（4， 5）の数は18⇒32とおよそ倍増した。保護者については、反対あるいは中立（1～3）の意見は24⇒11と半減した。



※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

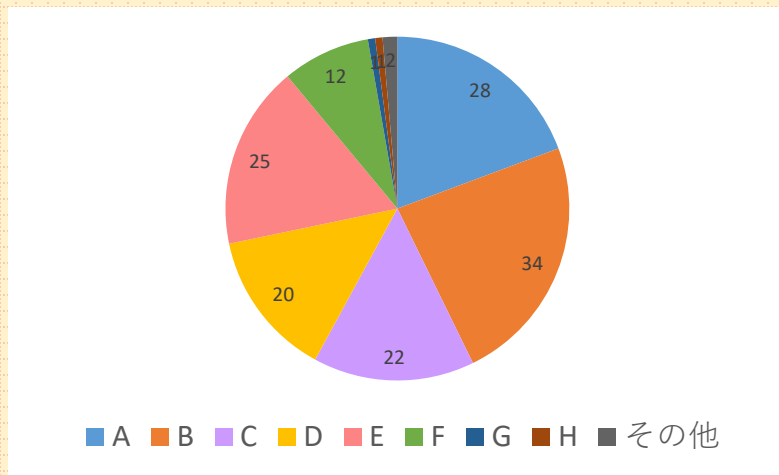
モデル事例別の効果

9月30日（土）・10月1日（日）「Out of KidZania inふくしま相双2023」

（4）建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生・中学生のみ回答、複数回答可）

小学生では「楽しそうだから」という理由が特に多く、

全体としては「イベントに参加して建設産業への興味・関心を持ったから」という理由が多かった。



≪グラフ項目≫

A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。

B 楽しそうだから。

C カッコいいから。

D 人の役に立つ仕事だから。

E 物を作るのが好きだから。

F やりがいのある仕事だから。

G 建設産業は今後も無くならないから。

H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

○その他回答（1件）：「トンネルをつくりたい」

（5）総括

本イベントは、パソコンと操作ハンドルを用いた重機操作シミュレーター体験や測量機器を用いた測量体験、ICT建機と高所作業車の試乗体験など、子ども達が実際に働いている職員と近い体験をできる内容となっていた。

建設産業で働く大人とほぼ同じ体験ができたことが、子ども達により「楽しさ」を感じさせ、建設産業への入職に興味を示すきっかけになったと考えられる。

モデル事例別の効果

10月21日（土）「あかりの日に竹あかりを灯そう」

【イベント概要】

電動工具を使った物づくり（竹あかり制作）を行う事で、その楽しさに触れてもらうイベント。
あわせて現役の職人を講師として招いての講話も行い、建設業の仕事を学んでもらった。

【参加者】20名

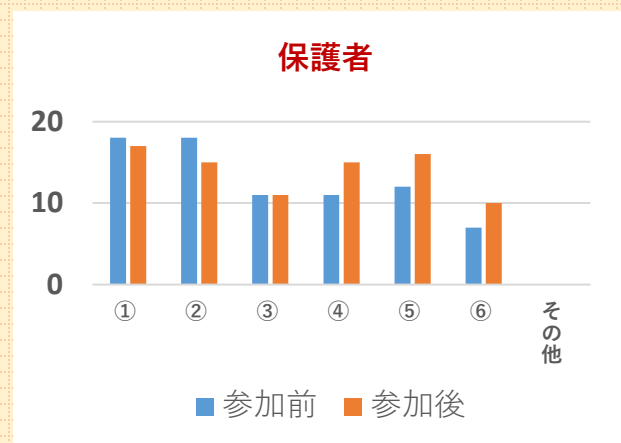
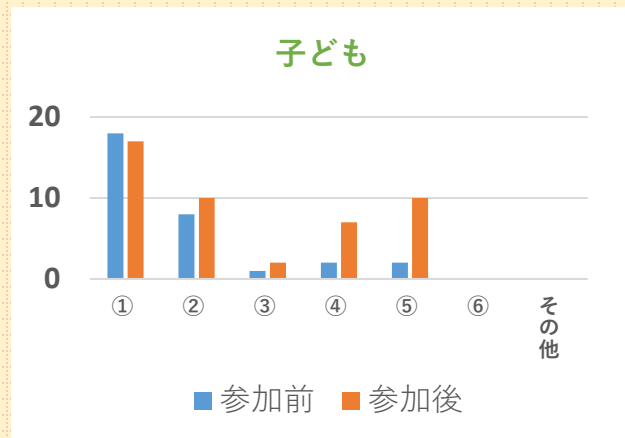
【アンケート回答者】18名（男性8名・女性10名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	4	3	2	6	2	1	0	0	0

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

小学生では④⑤について知っている人が増加し、保護者では④～⑥について知っている人が増加した。

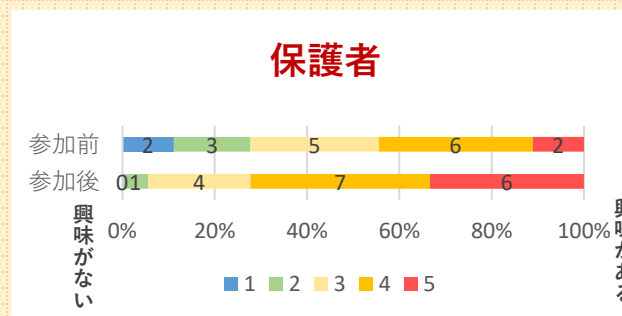
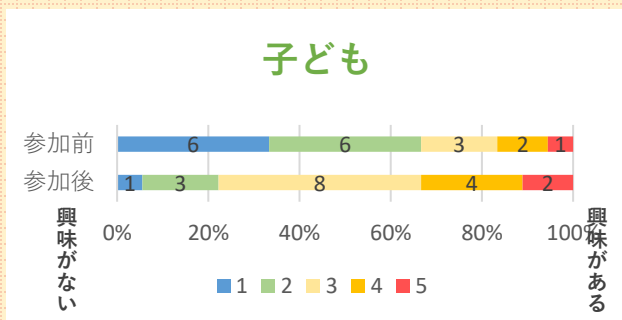


- ▲
グラフ
項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

10月21日（土）「あかりの日に竹あかりを灯そう」

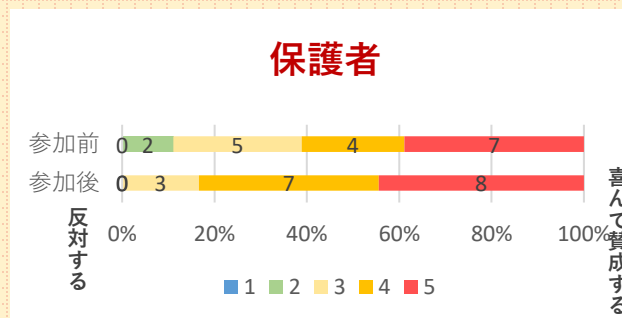
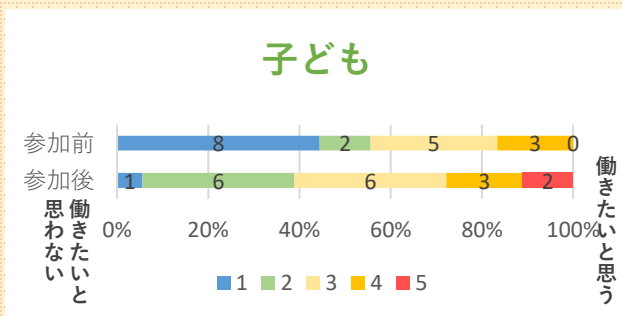
(2) 建設産業への興味

小学生においては興味がない（1， 2）と答えた人数が12⇒4と3分の1に減少し、保護者においては興味がある（4， 5）と答えた人数が8⇒13と増加した。



(3) 建設産業への入職への意欲

小学生においては1と答えた人数が8⇒1と大幅に減少し、5と答えた人数が0⇒2となった。保護者においては子どもの入職に反対する（1， 2）と答えた人数が0となり、賛成の回答は増加した。

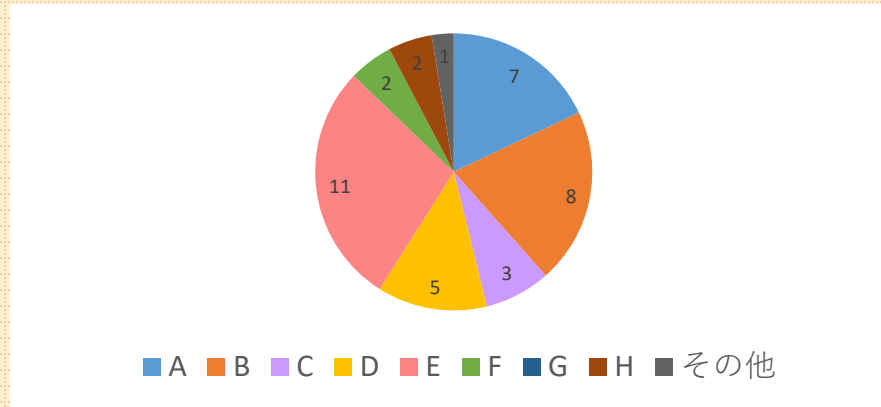


※お子様が建設産業への入職を希望された場合の心境

10月21日（土）「あかりの日に竹あかりを灯そう」

(4) 建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生のみ回答、複数回答可）

「物を作るのが好きだから」という理由が多く、次いで「楽しそうだから」「イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから」と続いた。



△グラフ項目▽

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C かっこいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くならないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

(5) 総括

本イベントでは、参加者に数パターンのデザインの型紙を選んでもらい、電動の工具を用いて竹を加工し、竹あかりの製作を行った。建設産業で用いられる材料や工具を使用したことで、参加者はモノづくりの楽しさと建設産業の仕事を結び付けることができ、入職への意欲につながったと考えられる。また、型紙のデザインパターンを複数用意することで作業が簡略化され、技能者が現場で使用する工具を用いた本格的なモノづくりが子どもでも体験可能となり、楽しいという感想が建設産業の仕事への興味と関連付けられたと考えられる。

モデル事例別の効果

11月20日（月）「女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！」

【イベント概要】

小学校の授業の一環として、学校近隣の高速道路の工事現場を見学し、土木の仕事を知ってもらうイベント。
見学前には女性土木技術者による仕事紹介や、見学する道路の説明なども行われた。

【参加者】40名

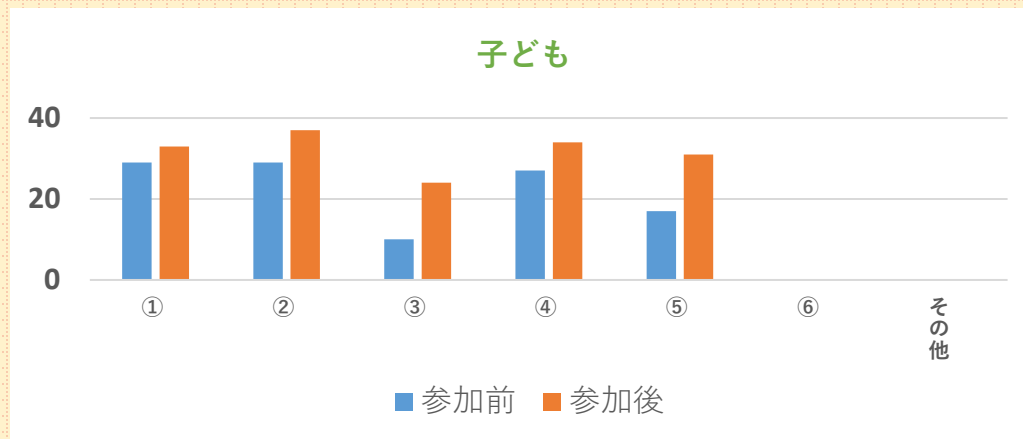
【アンケート回答者】40名（男性16名・女性22名、無回答2名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学5年生	小学6年生
人数	19	21

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

全体として数値が好転し、特に③⑤について知っている人数は参加前後で約2倍となっている。

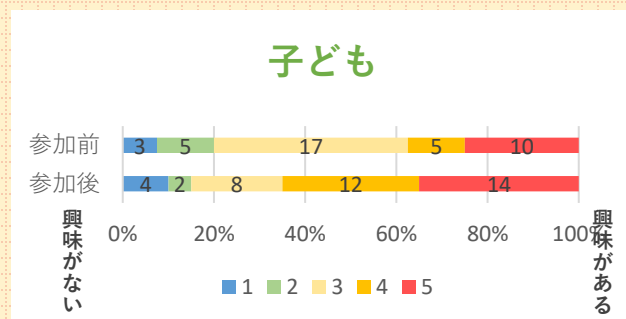


- ▲
グラフ
項目
▼
- ①家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ②道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

11月20日（月）「女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！」

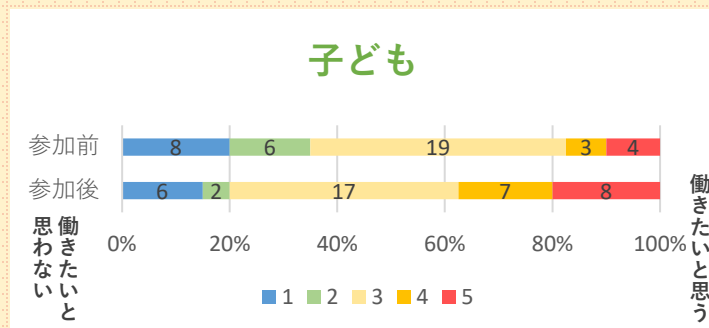
(2) 建設産業への興味

興味がありませんあるいは中立（2，3）と回答した人が22⇒10と半減し、興味がある（4，5）と回答した人は15⇒26、特に4と回答した人の数が大きく増加した。



(3) 建設産業への入職への意欲

参加前後では入職へ意欲を示した（4，5）人がそれぞれおよそ倍増しており、働きたいと思わない（1，2）と回答した人は14⇒8と減少した。

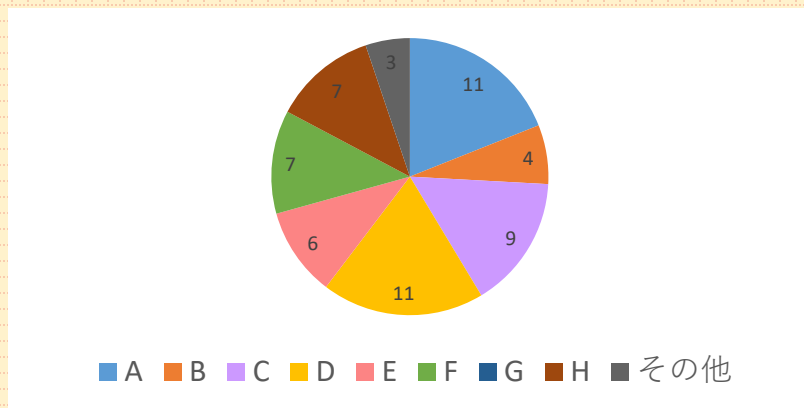


モデル事例別の効果

11月20日（月）「女性技術者から聞く土木の仕事 高速道路の工事現場を見てみよう！」

(4) 建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生のみ回答、複数回答可）

「イベントに参加して建設産業への興味・関心を持ったから」「人の役に立つ仕事だから」との回答が最も多く、僅差で「カッコいいから」という回答が多かった。



↑
グラフ項目
↓

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C カッコいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くならないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

○その他回答（3件）：「今はあまりやる気ではないけど、機会があったらやってみたい」
「高いジェットコースターが好きだから」
「建物をつくるのに、たくさんの工夫がされていて面白そうだから」

(5) 総括

本イベントは小学校の授業の一環として5，6年生を対象に実施され、座学で高速道路のメリットや、上部工やゴム支承などの構造上の仕組みを学んだ後、学校の近隣の高速道路の工事現場を見学した。身近だが通常車以外では立ち入ることができない高速道路に立ち入り、規模の大きさや内部構造を目の当たりにしたことで、建設産業でつくられるもののスケールの大きさが伝わりやすくなり、また建設産業がどれだけ人の役に立っているかを自らの生活に落とし込んで実感することができたことが、就業意欲の向上へつながったと考えられる。

モデル事例別の効果

11月25日（土）「しずおか建設まつり」

【イベント概要】

子ども達に建設業を身近に感じてもらう機会を創出し、将来の就職の選択肢の一つにしてもらうことを目的としたイベントにブース出展。おもちゃの工事車両（ダンプや油圧ショベルなど）を飾り付けてオリジナルの車両を作成する体験や、建築に関連した硝子細工を用いた体験等を行った。

【参加者】 240名程度

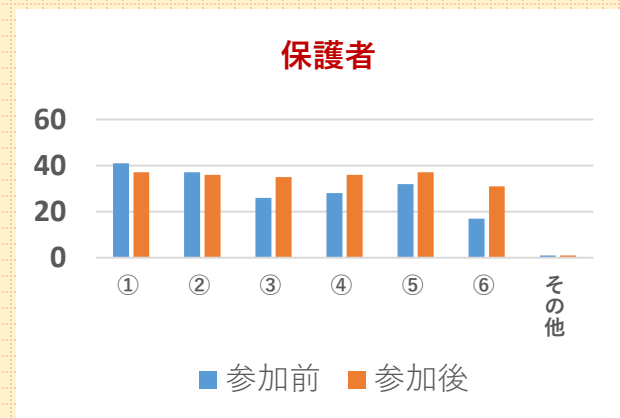
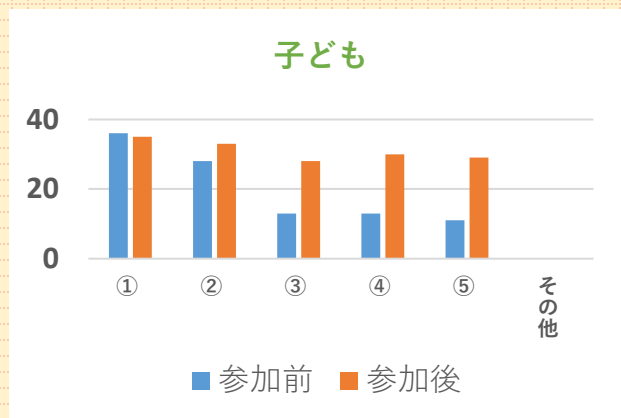
【アンケート回答者】 46名（男性25名・女性20名、無回答1名。学年の内訳は以下の通り）

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人数	11	10	8	6	5	5	0	1	0

【参加者各層への効果】

（1）建設産業に関する知識（複数回答可）

イベント参加前後では、特に小学生において、③～⑤について知っている人が倍増した。

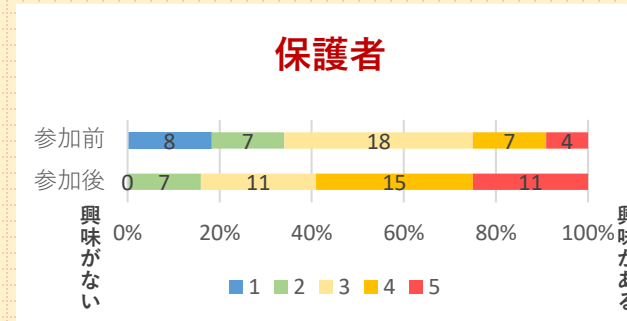
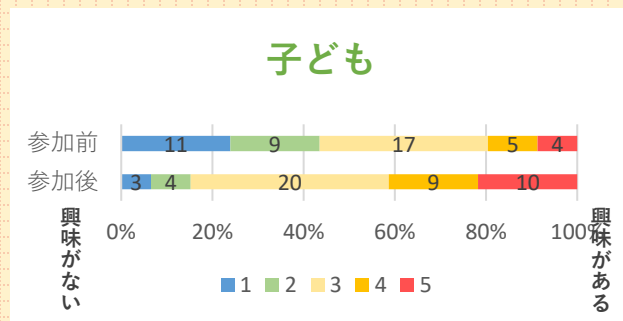


- △ グラフ項目 ▽
- ① 家、マンション、ビルなどを作っている。
 - ② 道路、橋、トンネル、ダムなどを作っている。
 - ③ 地震や台風の発生時に、がれきの撤去や復旧工事などを行っている。
 - ④ 多くの人が協力してひとつのものを作っている。
 - ⑤ 建設産業の中でも色々な仕事（設計、積算、現場監督、技能者等）がある。
 - ⑥ 最新の技術を活用した生産性の向上に取り組んでいる。

11月25日（土）「しずおか建設まつり」

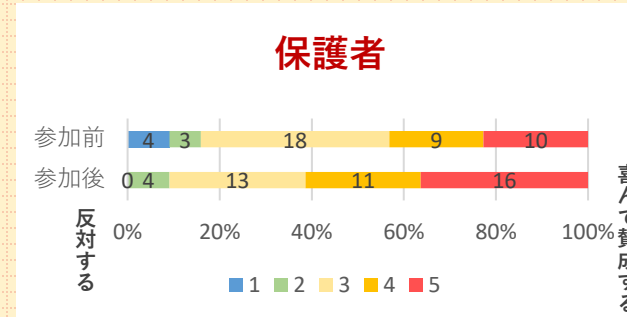
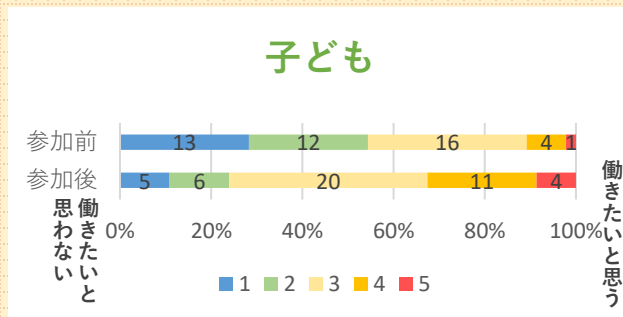
(2) 建設産業への興味

小学生と保護者において、興味がある（4，5）と回答した人数は9⇒19、11⇒26と倍増し、興味がない（1，2）と回答した人数は20⇒7、15⇒7と半減した。



(3) 建設産業への入職への意欲

小学生はイベント参加前は半数以上が建設産業で働きたいと思わない（1，2）と回答していたが、参加後には2割強に減少し、反対に3割強が入職に意欲を示した（4，5と回答）。保護者については参加後には1と回答した人数が0になり、子の入職に賛成（4，5）と回答した人数は6割に増加した。

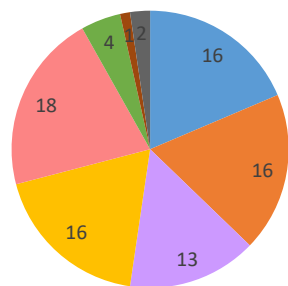


※お子様为建设産業への入職を希望された場合の心境

11月25日（土）「しずおか建設まつり」

(4) 建設産業への入職に意欲を示した理由（小学生・中学生のみ回答、複数回答可）

小学生では「物を作るのが好きだから」という理由が最も多く、僅差で「イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから」「人の役に立つ仕事だから」と続いた。



■ A ■ B ■ C ■ D ■ E ■ F ■ G ■ H ■ その他

≪
グラフ項目
≫

- A イベントに参加して建設産業への興味、関心を持ったから。
- B 楽しそうだから。
- C カッコいいから。
- D 人の役に立つ仕事だから。
- E 物を作るのが好きだから。
- F やりがいのある仕事だから。
- G 建設産業は今後も無くならないから。
- H 建設産業で働いてみたいとは思わない。

○その他回答（1件）：「働いてみようと思わなかったです」

(5) 総括

本イベントでは、おもちゃの工事車両の飾り付けやガラスを用いたインテリア雑貨作りなどのモノづくり体験を行った。おもちゃの飾り付けではシールのシートを選んで自由に貼り付けてもらい、雑貨作りでは好きなガラスを選んで両面テープやホチキスで土台にパーツを付けるといった形で作業を簡略化しながらも、建設産業に関連したものを材料に用いることで、小学校低学年や未就学児の参加者を中心に、モノづくりの楽しさと建設産業の仕事への興味を結び付けることができたと考えられる。